

平成 22 年度第 3 回東大阪市環境審議会 議事要旨

1.開催日時 平成 22 年 10 月 25 日（月）午前 10 時から午前 11 時 30 分まで

2.開催場所 東大阪市総合庁舎 18 階 研修室

3.出席者

（委員）

黒田会長、榊原委員、初谷委員、石井委員、有友委員、松下委員、的場委員、坪井委員、福永委員、川口委員、松浦委員、三木委員、松井委員、中庭委員、福本委員

（事務局）

中崎環境部次長、濱口環境企画課長、環境企画課主査 仲西、環境企画課主任 森本、環境企画課 太田、岩脇

4.議題

（1）第 2 次環境基本計画策定に関する経過と今後の予定について

（2）計画素案について

5.会議経過

（1）第 2 次環境基本計画策定に関する経過と今後の予定について

事務局、第 2 回環境審議会以降の計画策定に関する経過と今後の予定を説明

質疑・意見

（初谷委員）

平成 22 年 3 月に環境審議会会長から市長に答申するのは、「素案」ではなく、「案」ではないか。

（事務局）

ご指摘のとおり、「案」であり、修正をお願いします。

（黒田会長）

平成 23 年 1 月の専門委員会より環境審議会に報告するものも、「素案」ではなく、「案」ではないのか。

（初谷委員）

専門委員会は「素案」までの作成では。

（事務局）

専門委員会の作成した「素案」について、環境審議会の審議を経て「案」とする。

(2) 計画素案について

事務局、計画素案について説明

質疑・意見

(福本委員)

素案を見ると、内容、分量的にすごい内容であり、市民、行政と協働で進めるとあるが、どこまで下に降りて行くのかが気になる。啓発、広報をどのように行っていくのか。

(松浦委員)

市民団体として環境省の出前講座等に取り組んでいるが、東大阪市では取り組む地域が少ない。市民への啓発が少ないと感じており、学校や自治会にPR活動をしていないといけない。

(有友委員)

自転車を利用することは確かに環境に良いが、自転車利用を促進する上で課題も多い。例えば、商店街では降りて押してもらわないといけないが、電動自転車だと降りて押す方が力があるため、乗る人が多い。また、歩道と車道の段差が大きいことや駐輪場の整備が遅れていることも課題である。予算の都合もあるが、東京都のように、駅前にタワー状の駐輪場を整備したり、歩道の段差を無くすなど、平行して取組を進めて欲しい。

(松浦委員)

都市計画のなかで、建物を新築する場合、1.5mセットバックして道幅を広くしているところがある。セットバックしたところは道路にすることをいやがる市民の方も多く、路側帯にすると決めれば、段差のない歩道となる。環境問題は都市計画もあわせて進めていかないとけない。

(黒田会長)

自転車の活用促進については、具体的に市民が日常生活で使いやすいようにするために、東大阪市として国や府に働きかけていく必要もあると思う。

(榊原委員)

これまでの各委員の指摘は重要なことであり、細かな内容を考えると具体的に取組を進める手立てが必要である。総合計画などでは、基本計画の下に実施計画があり、具体的な内容が示されるが、実施計画をつくらないのであれば、例えば、協働による取組を進めるための仕組みとして「(仮称)環境報告会議」を位置づけられているが、名称を変えて「環境基本計画実施会議」とし、各施策を推進するための実施体制として重要な役割を与えてはどうか。

(事務局)

福本委員からご指摘のあった計画の周知についてであるが、庁内においては、策定過程において全部局と調整を図っており、事務担当レベルまで内容は周知している。また、計画に書かれている施策については、その下に各課が持っている事業があり、毎年、P D C Aにより進行管理していく予定である。

松浦委員からご指摘のあった広報活動については、庁内においては前述のP D C Aによる進行管理を行う上で周知を図るとともに、市民に対しては、環境報告会議の開催を通じて計画を周知を図って行きたいと考えている。

榊原委員からご指摘のあった各施策の実施については、各課が持っている事業を進めるとともに、実施計画というわけではないが、担当部局が持っている各種計画と連携を図りながら進めていければと考えている。

有友委員からご指摘のあった駐輪場の整備については、担当課を通じて応えていきたいと考えている。

(初谷委員)

第3回の専門委員会でも榊原委員から指摘があったが、環境報告会議をどのようにして効き目のある実質的な組織としていくかが重要である。市民が本当に我が事として取り組んでもらうためには、名称も含め、会議のデザインをもう少し詰めないといけない。

74 頁に「地域における取組を発表してもらう場」とある。最近、地方議会改革などで、市民に対する議会報告会を開くところが出てきている。「報告会議」といっても、行政が市民から一方的に報告を求めるのではなく、行政も取組を市民に報告するなど、市民、事業者、行政という各主体の相互性を示し、3者の連携を組織面で担保する仕組みとしなければならない。

専門委員会では、関係部局の担当者もオブザーバー参加されていたが、今日は出席されていない。直接関係する行政のいろいろな部署が絡む仕組みが必要である。また、この環境報告会議が各リージョンごとにできるのであれば、各会議の代表者などが他のリージョンの会議にも出席できるような仕組みとし、構成員についてもボランティアではなく、費用を手当てすることなども考えれば、頑張ってくれる人がでてくるのではないか。

(事務局)

環境報告会議については、発表の場だけでなく、各団体がお互いの取組を知り、連携していくための1つのきっかけの場になればと考えている。また、市民からの報告だけでなく、行政の取組についても報告していく予定である。会議の内容については細かなところまでは詰めていないが、開催しながら、良いところを吸収して変えていきたいと考えている。経費については、課題として検討していきたい。名称については、再検討させていただきたい。

(榊原委員)

とりあえず動き出しながら考えるということは結構だが、市民フォーラム的な組織にするのか、懇談会的なものにするのでは全然ちがう。具体的な体制のイメージを示さないと市民にもわからないのではないか。

(事務局)

具体的な体制イメージを記載するよう検討したい。

(福本委員)

第4章に地域特性を活かした環境づくりの方向が記載されており、市民懇談会の検討結果が反映されている。私もE地域に参加していたが、参加メンバーはわずかに4人であり、みんなで必死で考えた内容が計画に反映されているが、本当にこれでよかったのかとも思う。第5回の市民懇談会で、今年何ができたかを報告してと言われても、個人的に取り組んでいることはあるが、話し合った内容についてはまったく取り組めていない。

(事務局)

市民懇談会については、各団体の代表者に参加してもらっており、検討内容を計画に反映させてもらいたいという説明は行っている。また、会議結果を含め、取りまとめた内容については、参加者に送付させてもらっている。また、第5回の市民懇談会において、計画に反映した内容についても説明したいと考えている。

(松浦委員)

市民懇談会の人選については疑問を持っており、参加しようと思ったところ人選は終わっているということであった。基金をもらわなくても頑張っている団体もたくさんあり、豊富な知識を持たれている人も多い。もっと多くの参加者を募って実施してもよかったのではないか。

(事務局)

市民懇談会は環境活動を行っている団体にお声がけした他、市民公募も行っており、広く参加者を募って開催する工夫を行っている。

(初谷委員)

即答いただかなくてもいいが、環境報告会議については、推進体制として真に機能させるのであれば、今年度の市民懇談会をスライドするだけでは駄目だと思う。計画の推進のために、連携し、取り込む必要のある業界や団体にも参加をよびかけるなど、構成員の人選について丁寧な議論が必要である。また、「市民懇談会で提案された内容が基本計画に掲載されていることは、うれしい反面これでいいのかと思う」との意見も今述べられたことから、もし第5回の市民懇談会をパブリックコメントの後で実施するのであれば、パブリックコメントでの意見を受けて、市民懇談会のメンバーが内容の書き直しを検討する機会があってもいいのではないか。

(事務局)

どのようなメンバーに参加してもらうかについては、今後検討していきたい。また、第5回市民懇談会はパブリックコメント中に行いたいと考えていた。パブリックコメント後に開催できるかどうかも含め検討したい。

（福本委員）

市民懇談会に参加している方々はみんな真剣に議論して将来像や今後の取組を提案されていた。その点についてはご承知おきいただきたい。

（有友委員）

市民懇談会の人選は確かに大事である。私もB地域に参加させてもらったが、地域に稲田がまだたくさん残っており、これを保全したいということになったが、そのためには、実際に活動できる団体にも参加してもらう必要がある。公募してもなかなか参加されないため、あて職の人が参加しているのが現状である。環境に対する考え方についても地域でまだまだ温度差がある。

（黒田会長）

環境については、住む地域によって考え方も違うし、地域特性も違う。何が本当に環境に良いのかも捉え方によって異なるため、難しい問題である。

（的場委員）

パブリックコメントの実施方法と、これまでのパブリックコメントでの反響などについて教えていただきたい。

（事務局）

市政だよりで呼びかけ、HPや市役所の窓口で閲覧し、意見を募る形としている。反響については、一概に言えないが、昨年度策定した地球温暖化対策実行計画については、たくさん意見をもらっている。テーマごとに関心があれば反響もあると考えている。

（黒田会長）

11頁に環境基準とあるが、具体的に基準を示した方がわかりやすいのではないかと。

（松浦委員）

私たちの団体でも水質調査や勉強会を行っているが、ずいぶん前から環境基準は満たされていない。だからどうするのかと行政に質問しても返事がないのが現状である。

（黒田会長）

ノーマイカーデーはまだ実施しているのか。

（事務局）

府の施策であり、市単独では行っていない。43頁に市が行う具体的な施策を掲載している。

（黒田会長）

25頁に30%ごみを減量するとあるが、現状がどの程度か分かっているのであれば、掲載してはどうか。

(事務局)

調べて掲載するようにしたい。

(有友委員)

今年の10月で分別回収のエリアが市全体となったが、個々に見るとまだ取組に温度差がある。一般廃棄物でいうとこれからは生ごみをどうするかが課題だと考えている。たい肥化するにしても、水切りが重要であり、そのPRが市民に届いていないので、力を入れて欲しい。

(三木委員)

車道と歩道の段差については、自転車にのるものなら誰もが感じていることであるのに、何故解消されないのか疑問である。高齢化も進むのでなんとか解消できるようにしてほしい。

(事務局)

庁内の担当部局と調整したい。

6. 配布資料

資料1 第2次環境基本計画策定に関する経過と今後の予定

資料2 第2次環境基本計画素案

参考資料1 環境審議会及び専門委員会議事要旨

参考資料2 専門委員会及び環境審議会意見照会 意見対応一覧表

参考資料3 第2次環境基本計画素案に対する意見について

以上